

発刊に寄せて

今年度も登米市租税教育推進協議会並びに租税教育推進協力者の皆様のご尽力により、ここに「平成 30 年度租税教育指導事例集」が刊行されますことをたいへん喜ばしく思います。

市内小・中学校において、租税の仕組みや制度について学習し、興味をもち、見聞を深め、理解していくことは、誠に有意義であり、大事な取組と考えています。小・中学校の授業の中で、租税教育指導の進め方について、研究及び実践を行い、具体的に様々な取組事例を紹介する本書は、極めて有効な租税教育の実践のための参考書であると認識しており、その効果が大きいと期待されるものです。

租税制度は、国の運営の根幹を支える制度であり、私たちが納めた税金は、「国民の健康で豊かな生活」を実現するために、国や地方公共団体が行う活動の財源となります。この税金の使い道として、私たちの安全を守る警察・消防や、道路・水道の整備といった公的サービスや、教育・福祉・医療・年金など社会での助け合いのための活動に使われているところです。

本年度は、小学校 5 校、中学校 2 校の実践事例が紹介されています。いずれの学校でも児童生徒を対象にわかりやすく「税」を理解させるため、各種の工夫を凝らして取り組んでおり、今後の租税教育活動に大変参考になる内容となっています。各小・中学校におかれましては、ここに紹介されています租税教育実践事例を、今後ぜひ参考にさせていただきたいと思います。

結びに、各小・中学校の授業で、租税教育の推進にご指導いただいた先生方のご努力とご支援、並びに本事例集の取りまとめに当たられました佐沼税務署の皆様のご尽力に心から感謝を申し上げ、発刊に際してのあいさつとさせていただきます。

平成 31 年 3 月

登米市租税教育推進協議会会長
登米市教育委員会教育長

高橋 富男